

- 問1 5世紀の日本において、大和政権が広範囲を支配していたことを示す証拠として、埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣があります。この鉄剣には表面に金象嵌（きんぞうがん）で文字が刻まれており、そこに見られる、当時の大和政権の王を指す名称として正しいものを選びなさい。  
(2014年 和歌山公立入試 類似)
1. 聖徳太子 2. ワカタケル大王 3. 卑弥呼 4. 中大兄皇子
- 問2 5世紀頃、大陸から日本へ移住した人々によって伝えられた技術のうち、それまでの赤褐色の土器とは異なり、穴窯を用いて高温で焼かれた硬い灰色の土器を何と呼びますか。  
(2021年 島根公立入試 類似)
1. 縄文土器 2. 弥生土器 3. 須恵器 4. 土師器
- 問3 大阪府堺市に位置し、三重の堀に囲まれた巨大な鍵穴のような形状を持つ、日本最大級の面積を誇る古墳の名称として正しいものを選びなさい。  
(2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 大仙（大仙陵）古墳 2. 稲荷山古墳 3. 江田船山古墳 4. 高松塚古墳
- 問4 3世紀後半から古墳時代にかけて造られた、円形の後円部と方形（四角形）の前方部を組み合わせた、上空から見ると鍵穴のような形をしている古墳の名称を答えなさい。  
(2018年 長崎県公立入試 類似)
1. 前方後円墳 2. 円墳 3. 方墳 4. 積石塚
- 問5 古墳時代において、特定の地域に限定されず、全国各地で大規模な前方後円墳が築造されたという事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。  
(2018年 大分県公立入試 類似)
1. 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。 2. 各地の豪族が、大陸から伝わった最新の墓制を競い合うようにして独自に導入したこと。 3. 仏教の影響が全国に及び、共通の儀礼に基づいた埋葬方法が庶民にまで普及したこと。 4. 狩猟・採集中心の社会から、稲作を中心とする平等な共同体へと社会が変化したこと。
- 問6 中国の歴史書である『宋書』倭国伝には、5世紀に倭の五王が中国へ使者を送ったことが記されています。この「五王」が朝貢（皇帝への貢ぎ物）を行った相手である、当時の中国の勢力を何と呼びますか。  
(2024年 大阪公立入試 類似)
1. 南朝 2. 北朝 3. 隋 4. 唐
- 問7 3世紀後半から4世紀にかけての日本列島の歴史において、大規模な古墳の築造が始まった時期の政治状況を説明した文として、最も適切なものはどれか。  
(2025年 秋田公立入試 類似)
1. 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。 2. 朝鮮半島から移住した渡来人が、最新の鉄器技術を背景に単独の王朝を打ち立てた。 3. 各地の小国が対等な立場で同盟を結び、銅鐸を共有する祭祀によって平和を保った。 4. 『魏志』倭人伝に記されているように、九州地方を中心とした女王による統治が続いた。
- 問8 大阪府の「百舌鳥・古市古墳群」に代表される、5世紀ごろに築かれた巨大な前方後円墳についての説明として最も適切なものはどれですか。  
(2024年 熊本県公立入試 類似)
1. 大和政権の最高権力者である大王（おおきみ）の強大な権力を示すものである。 2. 鎌倉幕府の将軍が自らの権威を示すために仏教の教えに基づいて建立したものである。 3. 律令国家の成立後に、地方を治めるために任命された国司の墓として造られたものである。 4. 北条氏が執権としての地位を確立するために、各地の武士に命じて造らせたものである。
- 問9 400年頃に倭王が中国へ使いを送っていた記録がある時代から、平城京へと遷都されるまでの期間にかけて、日本列島では大陸との交流が盛に行われました。この時期の文化や技術の伝来について述べた文として、正しいものを選択してください。  
(2023年 愛媛公立入試 類似)
1. 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。 2. 大陸との交流を通じて、源氏物語や枕草子に代表される国風文化が開いた。 3. 大陸から最新の農業技術が伝わり、脱穀のための千歯扱きが全国に普及した。 4. 中国から大量の銅銭が流入したことで、須恵器に代わって貨幣経済が急速に発達した。
- 問10 大仙陵古墳（仁徳天皇陵古墳）のような巨大な古墳が築かれた背景や、その特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。  
(2020年 東京都公立入試 類似)
1. 墳丘の周囲には三重の堀が巡らされており、王の強大な権力を誇示する目的があったと考えられる。 2. 古墳の表面には、仏教の影響を受けた装飾として、寺院から伝わった瓦が並べられていた。 3. 死者を弔うために、土で人や動物の形を作って焼き上げた土偶が墳丘の周囲に並べられた。 4. 古墳の形状は、日本独自の形式である円墳が採用され、大陸の影響を一切排除して造られた。
- 問11 古墳時代に、大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築造された歴史的な背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。  
(2023年 神奈川県公立入試 類似)
1. 大和政権（ヤマト王権）の王が、自らの強大な権威や動員できる労働力の大きさを各地の豪族に誇示するため。 2. 大陸から伝来した仏教の教えに基づき、故人を盛大に供養することで国家の安寧を祈願するため。 3. 大規模な稲作の普及により余った土地を、洪水から守るための避難場所として整備するため。 4. 海外からの侵略を監視し、防衛するための軍事的な物見櫓や要塞として機能させるため。
- 問12 古墳時代の中期から後期にかけて、大陸から伝わった技術や思想が当時の日本に与えた影響について述べた文として、最も適切なものはどれですか。  
(2015年 千葉県公立入試 類似)
1. 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。 2. 日本独自の文字である「かな文字」が考案され、古今和歌集のような優れた文学作品が生まれた。 3. 大陸から青銅器の製作技術が伝わり、農耕の収穫を祝うための祭りの道具として普及した。 4. 律令国家の仕組みを確立するため、国家の成り立ちを記した日本書紀などの歴史書が作成された。
- 問13 日本列島の主要な地域を、九州北部、大阪付近、関東の内陸部、四国南東部の4地点に分けたとき、日本最大の前方後円墳である大仙古墳（仁徳天皇陵古墳）が位置する場所として最も適切なものはどれか。  
(2020年 三重公立入試 類似)
1. 九州北部 2. 大阪付近 3. 関東の内陸部 4. 四国南東部
- 問14 日本の古墳時代にあたる4世紀から6世紀ごろ、朝鮮半島では3つの国家が互いに勢力を競い合っていました。この3つの国家の組み合わせとして正しいものを次から選びなさい。  
(2024年 滋賀公立入試 類似)
1. 高句麗・百済・新羅 2. 魏・呉・蜀 3. 隋・唐・宋 4. 渤海・高麗・新羅

## 答え合わせ・解説

問1	答え 2 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、金象嵌によって「獲加多支鹵（ワカタケル）大王」の名が刻まれています。この王は『日本書紀』や『古事記』に登場する雄略天皇にあたりと考えられており、5世紀ごろの大和政権の強力な支配力を示す重要な史料となっています。
問2	答え 3 須恵器	渡来人は日常生活に密着した技術も多く伝播させました。それまで日本で作られていた土器よりも高い温度で焼成する技術や、ろくろを使用する技法が伝わったことで、より実用的で耐久性の高い器が生産されるようになりました。
問3	答え 1 大仙（大仙陵）古墳	堺市にあるこの古墳は、仁徳天皇の墓とも伝えられている日本最大の前方後円墳です。三重の堀に囲まれたその巨大な規模は、当時の大王（おおきみ）が持っていた強大な権力を物語っています。
問4	答え 1 前方後円墳	古墳時代を代表する墓の形式であり、円形と方形を組み合わせた独特の形状が特徴です。当時の有力者の権力の大きさを示す象徴として、近畿地方を中心に全国各地へ広がりました。
問5	答え 1 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	前方後円墳という日本独自の特定の形式が列島の広い範囲に普及したことは、それらの地域が「大和政権」を中心とする政治秩序の中に組み込まれていたことを意味します。共通の墓の形を採用することは、大和の王との結びつきを周囲に示す重要な手段でもありました。
問6	答え 1 南朝	当時の中国は、南北に王朝が分かれて対立する「南北朝時代」にありました。倭の五王（讃・珍・済・興・武）は、そのうち南側の「宋」などの王朝、すなわち南朝に使者を送りました。北朝は主に華北を支配していた別の勢力であり、隋や唐はのちに中国を統一した、より新しい時代の王朝です。
問7	答え 1 近畿地方の有力な豪族を中心とした、複数の勢力による政治連合が形成された。	3世紀後半から4世紀ごろになると、近畿地方の有力な豪族たちが中心となり、各地の勢力を結びつけた政治的な連合体が成立しました。これが大和政権（ヤマト王権）であり、その成立と発展は、各地に共通の形式を持つ巨大な古墳が築かれるようになったことから裏付けられます。弥生時代の小国が乱立し、争いを繰り返していた段階から、より広範な地域を統括する仕組みへと移行した重要な時期といえます。
問8	答え 1 大和政権の最高権力者である大王（おおきみ）の強大な権力を示すものである	「百舌鳥・古市古墳群」に含まれる大山古墳（伝仁徳天皇陵）のような巨大な古墳の造営には、膨大な数の労働者と高度な土木技術、そしてそれらを統制する強力な組織力が必要でした。これは大和政権の最高権力者である「大王」が、広範囲にわたる豪族や民衆を支配下に置いていたことを証明する歴史的背景を持っています。
問9	答え 1 渡来人によって、須恵器の製作技術や、漢字・儒教・仏教などが日本へ伝えられた。	古墳時代の5世紀前後から、朝鮮半島や中国大陸から移り住んだ「渡来人」は、当時の日本に存在しなかった高度な技術や文化を伝えました。これには、須恵器の製作技術のほか、機織り、金属工芸、さらには漢字や儒教、そして後の飛鳥文化の基盤となる仏教などが含まれます。選択肢にある「国風文化」は平安時代中期、「千歯扱き」は江戸時代の特色であり、この時期の出来事とは一致しません。
問10	答え 1 墳丘の周囲には三重の堀が巡らされており、王の強大な権力を誇示する目的があったと考えられる。	古墳時代中期に造られた大仙陵古墳は、鍵穴のような形をした日本独自の「前方後円墳」であり、周囲には三重の堀が巡らされています。このような大規模な土木工事を伴う古墳の建設は、当時の大和政権の王が、膨大な労働力を動員できるほどの強い権力を持っていたことを視覚的に示す役割がありました。なお、古墳に並べられたのは埴輪であり、縄文時代の土偶とは区別されます。
問11	答え 1 大和政権（ヤマト王権）の王が、自らの強大な権威や動員できる労働力の大きさを各地の豪族に誇示するため。	古墳時代において、巨大な前方後円墳を築くには膨大な年月と膨大な人数の労働力が必要でした。このような大規模な土木工事をを行うことができた事実は、その被葬者が広範囲に及ぶ支配権と財力を持っていたことを象徴しています。また、前方後円墳という特定の形式が日本各地に広がったことは、大和政権（ヤマト王権）を中心とした政治的な連合や身分秩序が各地の豪族との間に形成されていたことを示しています。
問12	答え 1 穴窯を用いた高温焼成による須恵器の製作や、儒教・仏教といった新しい思想が導入された。	渡来人によってもたらされた技術は多岐にわたります。実生活では、灰色の硬い土器である「須恵器」が作られるようになり、精神面や政治面では、国家の統治原理にもつながる「儒教」や、後に鎮護国家の思想へと発展する「仏教」が伝えられました。他の選択肢にある「かな文字」や「古今和歌集」は平安時代、「青銅器の祭器化」は主に弥生時代、「日本書紀」の完成は奈良時代の出来事であり、時期や内容が異なります。
問13	答え 2 大阪付近	大仙古墳（仁徳天皇陵古墳）は、大阪府堺市にある百舌鳥古墳群を構成する古墳の一つです。5世紀の日本において、近畿地方に拠点を置いたヤマト政権（大和朝廷）の大王が、各地の豪族を従えるほどの強大な権力を確立していたことを示す重要な史跡です。
問14	答え 1 高句麗・百濟・新羅	朝鮮半島では、北部の高句麗、西部の百濟、南東部の新羅の3校が対立し、抗争を繰り返していました。この情勢は当時の日本（倭）の外交や技術導入にも大きな影響を与え、日本は主に百濟や加羅（加耶）の地域と結びついて行動していました。